

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「沙石集」三文にして歯一つ 積題

南都に、歯①取る唐人②ありアキ。ある在家人の慳貪にして、利養を先と③し、ことに④触れて商ひ心のみ⑤ありて、徳も⑥ありイケルが、虫の⑦食ひウタる歯を⑧取らエセオムとて、唐人がもとニ行きカヌ。歯一つ⑩取るには、銭二文に⑪定めキタるを、「一文にて⑫取りテたべ。」と⑭言ふ。
少分のことクなれば、ただも⑮取るケベけれども、心ざまの憎さに、「ふつと一文にてはニ取らコジ。」と⑯言ふ。やや久しく⑰論ずるほどに、おほかた⑲取らサザリシケれば、「さらば、
三文にて歯二つ⑳取りスたまへ。」とて、虫も㉑食はセぬに、よき歯を㉒取り添ヘて二つ㉓取らソセて、三文㉔取らせタつ。心には利分とこそ㉕思ひチケめども、疵なき歯を㉖失ひツぬる、
大きなる損テなり。これは、申すに㉗及ばトず、大きにおろかなること、をこがましき
わざナなり。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「沙石集」三文にして歯一つ 解答

ラ四(体)

ラ変用 過去

サ変用

ラ下二(用)

南都に、歯^①取る唐人^②あり^{アキ}。ある在家人の慳貪にして、利養を先と^③し、ことに^④触れて

ラ変用

ラ変用 過去

ラ四(末) 使役

ラ下二(用)

商ひ心のみ^⑤ありて、徳も^⑥あり^{イケル}が、虫の^⑦食ひ^ウたる歯を^⑧取ら^エせ^オむとて、唐人がもと

カ四(用) 完了

ラ四(体)

マ下二(用) 存続

ラ四(末)

ラ四(用)

に^⑨行き^カぬ。歯一つ^⑩取るには、銭二文に^⑪定め^キたるを、「一文にて^⑫取りて^⑬たべ。」と^⑭言ふ。

少分のこと^クなれば、ただも^⑮取る^ケけれども、心ざまの憎さに、「ふつと一文にては

ラ四(末) 打消意志

ハ四(終)

ラ四(終) 可能

ラ四(末) 打消

過去

少分のこと^クなれば、「さらば、^⑯取ら^コじ。」と^⑰言ふ。やや久しく^⑱論ずるほどに、おほかた^⑲取ら^サざり^シければ、「さらば、

三文にて歯二つ^⑳取り^スたまへ。」とて、虫も^㉑食は^セぬに、よき歯を^㉒取り添へて二つ^㉓取ら

使役 サ下二(用) 完了

ハ四(用) 打消

ハ下二(用)

ハ四(用) 完了

ラ四(末)

ソせて、三文^㉔取らせ^タつ。心には利分とこそ^㉕思ひ^チけめども、疵なき歯を^㉖失ひ^ツぬる、

断定 サ四(体) バ四(未) 打消

ハ四(用) 過去推量

ハ四(用) 完了

ラ四(末)

大きななる損^テなり。これは、申すに^㉗及ば^トず、大きにおろかなること、をこがましき

わざナ^ナなり。